



社会性に関する情報について気づいたこと

京都タワーとひらかたパークを訪問しました。京都タワーは、京都のシンボルとして地域に愛され、また、施設の子どもを招待した種々のイベントなどの地域貢献も行なわれていました。ひらかたパークは、関西民鉄系の遊園施設が相次いで閉鎖されるなか、年間約100万人の来園者数を誇るファミリー型遊園地です。各種団体からの職業研修も多数受け入れるなど社会貢献面でも活躍しています。自然に恵まれた環境なので、今後は園内の生物多様性の視点を考慮した取り組みが期待されます。2009年度ファミリーレールフェアでは寝屋川車両基地の開放が行なわれ約14,000名の来場者を迎えられました。従業員全員がホスピタリティを発揮し、地域社会とのコミュニケーションが醸成された良い催しになったようです。本業をメインにして、多くのステイクホルダーとのつながりを重視する取り組みは高く評価できます。

「お客さまセンター」の活動は年々充実し、センターに寄せられた声は、鉄道CS推進会議で取り上げられ、いくつもの改善として実現されています。逆方向では、お客さまへの情報提供の強化を目的に、乗務員への運行状況確認用携帯電話の携行が行なわれ、双方向コミュニケーションが図られています。従業員に対しては、労働災害の減少を目的にリスクアセスメントの取り組みが始められ、将来の労働安全衛生マネジメントシステムの中核として成果が期待されます。

今後は、京阪電気鉄道としてマテリアリティ(重要性)の視点を取り入れた体系的な活動が望まれます。ステイクホルダーダイアログの開催など外部からの意見を取り入れつつ、CSR目標の明確化、行動結果の開示などを通じ京阪電気鉄道としての社会的責任の明示が期待されます。

2010年6月18日

株式会社環境管理会計研究所

國部克彦 (神戸大学大学院経営学研究科教授)

梨岡英理子 (公認会計士)



社長インタビュー



鉄道事業部研修所
(現:鉄道営業部研修課)でのヒアリング



安全統括管理者インタビュー



寝屋川車両工場の視察

第三者意見を受けて

今回の報告書も、一昨年、昨年に引き続き環境管理会計研究所から第三者意見をいただきました。

安全への取り組みについては、2009年度の国土交通省の運輸安全マネジメント評価と同様に第三者意見でも高い評価をいただきました。今後もお客さまに安心して鉄道をご利用いただくために安全確保に取り組んでまいります。昨年度は効率的に省エネ車両を活用したり、鉄道電力削減のためのさまざまな取り組みの結果、運転用電力原単位での目標を達成することができました。

また、寝屋川車両工場や駅などの当社鉄道部門での取り組みは勿論、ひらかたパーク、京福電鉄、京都タワーをはじめ、グループを挙げて社会貢献活動に積極的に取り組んでおります。

今後とも、外部の方からのご意見を参考にして、CSR活動を充実し、ステイクホルダーの皆さまの信頼を得られるよう努めてまいります。

平成22(2010)年7月

京阪グループCSR委員会 副委員長

代表取締役副社長

櫻井 謙次